

東部消防組合の新しい指令センターが開設

東部消防組合は高機能消防指令センター施設の開設にともない、10月15日に運用開始式を行いました。同センターは、平成7年から使用している旧システムの老朽化にともない、沖縄防衛局の助成事業を活用して事業費1億8,236万円で整備。119番通報の受付や出動指令等の機能はもちろん、地図情報や気象情報、車両情報などのネットワーク機能を兼ね備えており、地域防災活動の拠点として期待されています。東部消防組合管理者の城岡俊安南風原町長は「これからセンターを活用し、町民の安心安全な生活の確保を目指したい」と抱負を述べました。



元気いっぱい！にぎやかに福祉ふれあい運動会を開催

幼児、老人、障がい者と福祉関係者等がスポーツやレクリエーションを通して交流を深め、町民の社会福祉に対する理解と高揚を図ることを目的に、第8回福祉ふれあい運動会(町社会福祉協議会、同実行委員会主催)が10月17日、町民体育館で開催されました。町内の保育所や福祉団体などから約800名が参加、リレーや玉入れなどの各競技に子どもからお年寄りまで出場し、汗を流しました。パン食い競争に参加した子どもたちは、なかなかパンを口にくわえられず悪戦苦闘。どうにかパンを口にしてゴールする姿に会場から拍手が沸き起こりました。



呉屋八重子さん、稲福トヨさん、祝！がじまやー

花ぬかじまやー合同祝いが10月17日、上原自治会で行われました。上原自治会では今年3名がかじまやーを迎え、呉屋さんと稲福さんの合同祝いを開催。パレードから参加した呉屋さんは、色とりどりに飾り付けられた車に乗って中城と西原の各地を回りました。行く先々ではたくさんの方が出迎え、祝福していました。合同祝いには地域や親族などが多数かけつけ、会場から溢れるほどの方が2人の長寿を祝福しました。



パレードで祝福を受ける呉屋さん



公共工事における暴力団排除対策を強化 一町と浦添警察署で合意書を調印

「西原町発注工事における暴力団員等による不当介入の排除手続きに関する合意書」の調印式が、10月27日町役場で行われ、町と浦添警察署(親川啓和署長)との間で合意されました。本合意は、町が発注する公共工事の指名業者や受注業者への介入を排除することを目的としており、業者に対して暴力団員等からの不当な要求や工事の妨害行為があった場合、警察への通報と町への報告を義務付けることとなっています。親川署長は「安全、安心なまちづくりを目指して町と連携して取り組みたい」と抱負を語りました。町では今回の合意を受け、関係規則の改正を行い、合意内容の実現を目指します。



舞藝琉太鼓が結成20周年 記念コンサートを開催

県営西原団地の子ども会活動の一環として活動する舞藝琉太鼓が今年20周年を迎えるのを記念し、チャリティーコンサート「太鼓道～和太鼓の競演～」(同実行委員会主催)が開催されました。1990年に結成された舞藝琉太鼓は、これまで地域行事を始め西原まつりや平和音楽祭など、西原町のイベントに多数出演。2005、06年の東京国際和太鼓コンテストで入賞を果たし、2008年にはうたの日コンサートへ出演するなど、その活動は県内外で高い評価を受けています。コンサートの開催にあたり、代表の城間恵子さんは「20年の間に太鼓を通じてたくさんの方の幸せを味わうことができた」と喜びを語りました。コンサートには舞藝琉太鼓と交流の深い野國總官太鼓ほか3組がゲスト出演。会場には600人以上の観客が詰めかけ、2階に立ち見が出るほど。観客は各団体が披露する個性的な演技に酔っていました。

【動画】町HP「さわふじチャンネル」で公開中



認可保育園の新設に向け、 地鎮祭を挙げる

サウンド幼児学園(宮城茂光園長)は、認可保育施設の新設(さうんど保育園)に向けて、11月1日に字棚原の移転予定地で地鎮祭を行いました。新しい保育園は来年3月完成ののち、平成23年度から園児を受け入れる予定。完成すると、人口が増加傾向の棚原地区で初の認可保育園となり、課題となっている待機児童の解消が期待されます。参列した上岡町長は「宮城園長の一念発起で、さうんど保育園が新設されることになりました。4月の開園を目指し、安全な施工をお願いします」と激励。宮城園長は「多方面の協力を受け、よい保育環境が整備できる。地域に根ざした保育園を目指したい」と抱負を語りました。



西原の文化の祭典、 西原町文化祭が盛大に開催

「継承・創造・躍進」をテーマに、第11回西原町文化祭(町文化協会主催)が開催、町文化協会に所属する各部会が磨き上げた、日ごろの伝統や技が披露されました。10月22日から24日にかけて町民体育館で開催された展示部門では、書道や写真など、6部門約170点を展示。会員の見事な作品の数々が、訪問者の目をひいていました。10月30日、31日の両日、町中央公民館で開催された舞台部門では古典音楽や組踊など、沖縄の伝統芸能から普段見る機会の少ない洋楽、詩吟などさまざまな芸能を披露。2日間に渡って多くの観客が会場を埋め尽くし、芸術の秋を堪能していました。

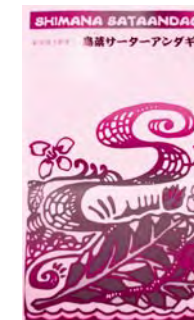
【動画】町HP「さわふじチャンネル」で公開中



西原産シマナーを活用したお菓子が 「新琉球王朝菓子」として商品化!

沖縄菓子産業の自立と発展を目指した「新琉球王朝菓子ブランド事業」の一環として、西原産のシマナーを活用したサターアンダギーをはじめとする7品目が発売されました。同事業は菓子製造者と卸売業者が協業し、JAおきなわや西原町と連携して商品を開発。西原町では、生産量県内3位を誇るシマナーに着目し、加工品の原料として西原町耕作放棄地解消対策協議会がシマナーを出荷。同協議会では現在、実証圃場で在来種のシマナー生産に取り組んでいます。今後、同協議会はシマナーをはじめとする沖縄の伝統的島野菜を活用した加工用原料の生産や、農商工連携を図りながら農業の振興と地域活性化を目指しています。「島菜サターアンダギー」をはじめとする「新琉球王朝菓子」は、11月から県内スーパーやコンビニエンスストアで販売しています。

【動画】町HP「さわふじチャンネル」で公開中



西原産シマナーが入っている島菜サターアンダギー(税別150円)



「新琉球王朝菓子」ブランド事業の記者会見(県庁記者会見室)

庁舎等複合施設の建設に向け、 検討委員会が発足

町役場の新庁舎を含む複合施設の建設事業推進を目指して、「西原町庁舎等複合施設建設検討委員会」が発足し、11月1日に第1回の会議を行いました。委員には公募で選出された町民3名を含む13名が町長より委嘱を受け、平啓介琉大教授が検討委員会の委員長に就任しました。会議では町の担当者や基本設計業務を受託している設計業者が状況と今後の方針を説明。今年度、あと2回ほど委員会を開催し、施設の基本設計等を検討していきます。

